はしがき

『言葉と文化』の発行も七回目を迎えました。今回の第７号には15篇の論文が掲載されています。

今年度は複数の先生方に査読をお願いすることにより、今までよりも少しだけハードルを高くし、研究に真摯に取り組む姿勢をより一層養っていただきたいと考えました。専攻長として、この研究誌の内容が年ごとに充実していくことを願ってやみません。

『言葉と文化』という雑誌の位置づけは、投稿者にとっても様々でしょう。とくに院生の皆さんは、学会誌に投稿するための基礎を学ぶ場と考えている方も多いと思います。この雑誌を足がかりにしてより広い場に羽ばたいていけるとすれば、それは大変喜ばしいことです。あるいは、この雑誌を新しい実験の場と考えることもできるでしょう。常に新しい精神で、新しい視点や方法で、あるいはこれまで見過ごされてきた新しい対象を求めて、生き生きとした研究の萌芽が育まれる場、『言葉と文化』がそんな場となるならば、それもやはり大変素晴らしいことだと思います。

この雑誌に投稿する皆さんがこの雑誌を作っていく当事者であり、仲間です。研究には様々な時期があるでしょう。思考が停止してスランプに陥ったり、焦点がぼやけたり、あるいは自分の対象にいつの間にか興味がもてなくなったり……。そんな時に、指導教員や研究仲間と話し合って問題を一つ一つ解決していく、そのような研究共同体の足場として、『言葉と文化』という雑誌が今後ますます身近でかつ厳しい試練の場になるように、心から祈っています。

また、お忙しいなか査読をお引き受けくださり、熱心にご指導いただいた先生方にも、この場をかりて深く感謝の意を表します。

2006年２月24日

『言葉と文化』第７号
編集担当（専攻長）
前野　　みちこ

執筆者一覧（掲載順）

杉　村　　泰	国際言語文化研究科日本言語文化専攻助教授
Kekidze Tatiana	国際言語文化研究科日本言語文化専攻助手
田　中　聰　子	文学研究科日本言語文化専攻後期課程満期退学
顧　　那	国際言語文化研究科日本言語文化専攻後期課程
東　　会　娟	国際言語文化研究科日本言語文化専攻後期課程
徐　　孟　鈴	国際言語文化研究科日本言語文化専攻後期課程
李　　津　安	国際言語文化研究科日本言語文化専攻後期課程
船　津　明　生	国際言語文化研究科日本言語文化専攻後期課程
山　本　幸　一	国際言語文化研究科日本言語文化専攻後期課程
浅　井　美恵子	国際言語文化研究科日本言語文化専攻後期課程満期退学
八　木　真　生	国際言語文化研究科日本言語文化専攻後期課程満期退学
田　口　香奈恵	国際言語文化研究科日本言語文化専攻後期課程
趙　　青	国際言語文化研究科日本言語文化専攻後期課程
蔡　　江　華	国際言語文化研究科日本言語文化専攻後期課程
斉　藤　信　浩	国際言語文化研究科日本言語文化専攻後期課程
王　　閏　梅	国際言語文化研究科日本言語文化専攻後期課程

目　　次

杉村　泰　副詞「タブン」と「タイテイ」のモダリティ階層…… 1

Kekidze Tatiana・田中聰子
日露対照言語文化研究―気になる人目―…… 17

顧　那　自由直接話法と自由間接話法の周辺テクスト…… 35

東　会娟　会話コーパスに見る
中国人日本語学習者の縮約形の使用状況…… 51

徐　孟鈴　依頼会話の【終結部】の考察
―日本人・台湾人・台湾人上級学習者の
接触場面のロールプレイデータを比較して―…… 67

李　津安　副詞「いかにも」「さも」「まるで」「まさに」について
…… 85

船津明生　満州問題に関する新渡戸稲造の言説について…… 103

山本幸一　「ウナギ文」の分析―連結メトニミーとして―…… 121

浅井美恵子　日本語の論説的文章における指示詞「この」「その」
―日本語母語話者と日本語学習者の使用の比較―…… 141

八木真生　「そりゃそうだ（それはそうだ）」の意味機能
―「φそうだ」と比較して―…… 151

田口香奈恵　ブラジル人児童の受身表現の産出に関する実証的研究
―先行研究の検証―…… 165

趙　青　歌枕「塩釜の浦」の新古今的展開…… 179

蔡　江華　業平と高子の悲恋―後世物語との関連―…… 197

斉藤信浩　韓国語習得における主格助詞と対格助詞の省略について
―対格型言語の主格卓越性の検証と指導効果の影響を巡って―
…… 213

王　閏梅　近代化の過程に見る中国・日本の言論界
―梁啓超と福沢諭吉を中心に―…… 229